

日本ガス協会 本荘会長 会見発言要旨

1. 2023年度 日本ガス協会事業計画

ロシアによるウクライナ侵攻等を受けて変動する事業環境を踏まえ、日本ガス協会では、今後も社会の要請に応えながら、カーボンニュートラル社会の実現を目指し、事業計画を策定した。

都市ガスの安定供給、レジリエンス強化に向けた不断の取り組み、カーボンニュートラルチャレンジ2050アクションプランの更なる推進、地域脱炭素・地域活性化への貢献を3つの柱とし、重点項目に位置づけ、都市ガス事業の持続的発展に向けた取り組みを推進していく。

都市ガスの安定供給、レジリエンス強化に向けては、有事におけるLNG供給途絶時の円滑な対応の備えを徹底するとともに、災害時連携計画の実効性を高める取り組みや広域地震を想定した訓練等を実施していく。

カーボンニュートラルチャレンジ2050アクションプランの更なる推進については、トランジション期における燃料転換や低炭素化・エネルギーセキュリティ強化に資するガスシステムの導入を進め、またe-メタンのCO₂コントロールの整備を促進するとともに、環境価値移転に関わる制度議論へ積極的に関与し、社会実装に向けた課題を訴求していく。

地域脱炭素・地域活性化への貢献については、地域脱炭素セミナーの開催など、ガス事業者と自治体との地域連携を後押しする取り組みを進めるとともに、好事例の水平展開や新事業を検討する勉強会を開催するなど、活動を強化していく。

2. e-methane (e-メタン) 導入促進に向けた検討

e-メタン導入促進に向けた検討がガス事業制度検討ワーキングおよ

びメタネーション推進官民協議会で進められている。

ガスワーキングでは、都市ガスのカーボンニュートラル化を促進するための制度、規制、経済的インセンティブ、支援等について検討されており、6月を目途に中間とりまとめが行われる予定となっている。

メタネーション推進官民協議会では、e-メタン導入に向けた論点や最近・今後の動きが整理され、環境価値の移転の仕組みに関しては、日本ガス協会からクリーンガス証書に係る検討について説明した。

全国的にガス導管が繋がっていない状況等を踏まえ、e-メタンやバイオガスなどのクリーンガスを普及拡大する手段として、環境価値の移転を可能とするクリーンガス証書のスキームを検討していく。

日本ガス協会が中心となり、2023年度にテスト運用を開始し、2024年度に実運用を目指す。

3. 2025年大阪・関西万博 ガスパビリオン概要

昨年5月、日本ガス協会は、ガスパビリオンの出展を決定し、その後、具体的に検討を進めてきた。

このたび、コンセプトを、「化けろ、未来！」に決定した。2050年のカーボンニュートラル社会の実現に向けて、私たち一人ひとりが、大切な人のため、地球のために意識や行動を変えることで、社会や世界が希望に満ちた姿に変わっていくという思いを込めている。

このコンセプトを具現化するものとして、パビリオン名称、建築デザインも決定した。

今後、検討を深め、皆さまに楽しんでいただけるガスパビリオンをつくっていきたい。

以上